

The Rotary Club of Sapporo Odori Park

札幌大通公園ロータリークラブ
ライラック通信(2008/12/15号)

会長 大坂忠 幹事 高橋宏

第323回例会報告(2008年12月8日)

佐藤会員から自身が経営する印刷業についてのお話をいただきました。
同会員は具体的なシール印刷の製品を多数持参して皆にプレゼントしてくれました。
私たちは、日頃あまり考えないような種類のシールに興味津々でした。楽しい図柄のもの、いかにも子供が喜びそうな形のものに驚かされました。糊付けされている部分が交互になっているために、ティッシュ・ペーパーのように一枚使うと次の一枚が自動的に出てきてくるというアイデアにあふれた製品もありました。
興味尽きない製品を示された後、質問が数多くでて楽しい例会になりました。

第324回例会予定(2008年12月15日)

・会員増強問題について考える

第325回例会予定(2008年12月22日)

・忘年会

環境問題基礎知識(第18回:20世紀最大の環境破壊)

旧ソ連が行ったアラル海の周辺地域の灌漑や運河建設については、旧ソ連の科学者の中にも、今日のようなアラル海消滅の危機を招くことをあらかじめ想定し反対を唱えた人もいました。しかし、「自然改造」の弊害は「自然改造」で克服するという考え方がより建設的であるとされた時代のことです。そのような科学者は、「社会主義を妨害するもの」と見なされるだけでした。

旧ソ連の中央政府は、漁業利潤と灌漑利潤試算を盾に、当時、「アラル海で捕れるチョウザメのキャビアがどれほどの利益になるか。それが社会主義の勝利にどれほど貢献するというのか。それよりも砂漠の地を緑に変え、そこで栽培される綿花がどれだけの利益を生み出すだろう。なるほど、灌漑によってアラル海は干上がるかもしれない。しかし社会主義の勝利のためにはアラル海はむしろ美しく死ぬべきである」と説明していました。

アラル海の消滅の危機は自然環境に対する人間の傲慢さから引き起こされたものです。我々は、このようなことが二度と無いように十分に反省しなければなりません。